

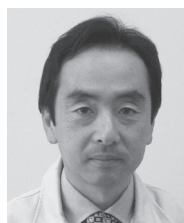
執筆分担

巻頭言：中央大学理工学部教授 稲葉 次紀

はじめに：常務理事 新田 明人

- 1章：天川 正士
- 2章：天川 正士、足立 和郎
- 3章：池田 弘一
- 4章：古川 静枝、足立 和郎、藤原 和俊
- 5章：岩田 幹正
- 6章：天川 正士、足立 和郎、岩田 幹正、
池田 弘一、古川 静枝
- 7章：天川 正士

おわりに：理事 電力技術研究所長 藤波 秀雄



足立 和郎（1986年入所）
電力技術研究所 上席研究員
アークプラズマを用いた低レベル放射性廃棄物の溶融処理・乾式除染処理に関する研究に従事している。



天川 正士（1984年入所）
電力技術研究所 上席研究員
アークプラズマを用いた放射性廃棄物の溶融処理に関する研究に従事している。他に、アークプラズマの輸送特性や陽極現象のモデリングに携わってきた。



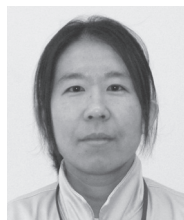
池田 弘一（1991年入所）
電力技術研究所 主任研究員
電力機器における大電流アーク現象や廃棄物の溶融無害化再資源化などのアークプラズマの応用技術に関する研究に従事してきた。最近では故障電流対策やアークプラズマを用いた放射性廃棄物の溶融処理の研究に取り組んでいる。



岩田 幹正（1990年入所）
電力技術研究所 上席研究員
アークプラズマを用いたナノ粒子の創製およびその応用に関する研究に従事している。他に、交流プラズマトーチにおける電極損耗・プラズマ不安定現象、大電流アーク放電の基礎特性や遮断現象に関する研究にも携わっている。



藤原 和俊（1994年入所）
材料科学研究所 主任研究員
軽水炉水化学管理の高度化に向け、構造材料の腐食抑制、腐食生成物の除去および蓄積低減に関する研究に従事している。ここ数年間は、流れ加速型腐食に及ぼす水化学因子の影響に関する研究に取り組んでいる。



古川 静枝（1996年入所）
電力技術研究所 主任研究員
アークプラズマを用いた放射性廃棄物の乾式除染技術や溶融処理等の研究に従事している。

編集後記

電中研レビュー第54号「アークプラズマとその応用技術 - 廃棄物処理と材料創製への応用 -」をお届けいたします。

本号では、「巻頭言」を中央大学教授 稲葉次紀様にご執筆いただきました。ご多忙中にもかかわらず快くご寄稿いただき、心からお礼申し上げます。

低炭素社会の実現が声高に叫ばれる中、二酸化炭素をほとんど排出しない原子力発電の役割がますます重要になっています。同時に、エネルギーを有効に利用する技術や省エネルギー技術も重要です。これらの社会的な潮流に対し、超高温という他の加熱源にない優れた特長を有するアークプラズマが、少しでも寄与できれば幸甚です。

また、本レビューが、電力各社をはじめ関係諸機関の方々に少しでもお役に立てば幸いです。

本冊子についてのご意見をお待ちしております。

表紙絵：廃棄物の溶融・減容処理に用いた実験装置（2章、3章）と材料創製を行っている実験状況の写真（円内：5章）を配置しました。